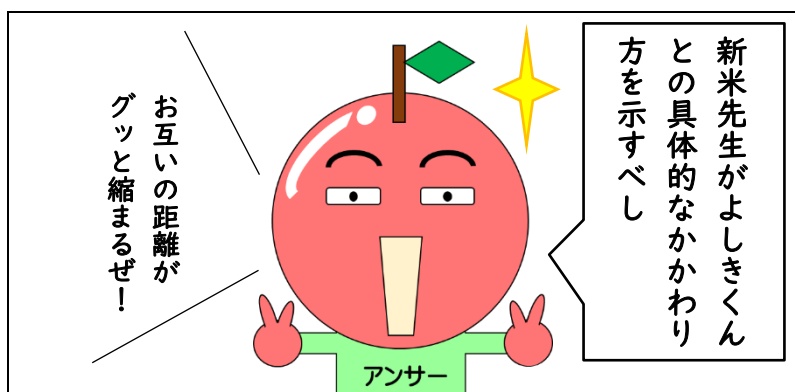
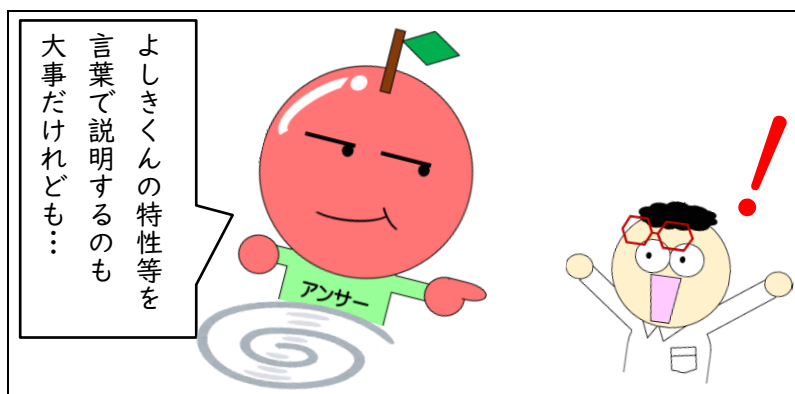
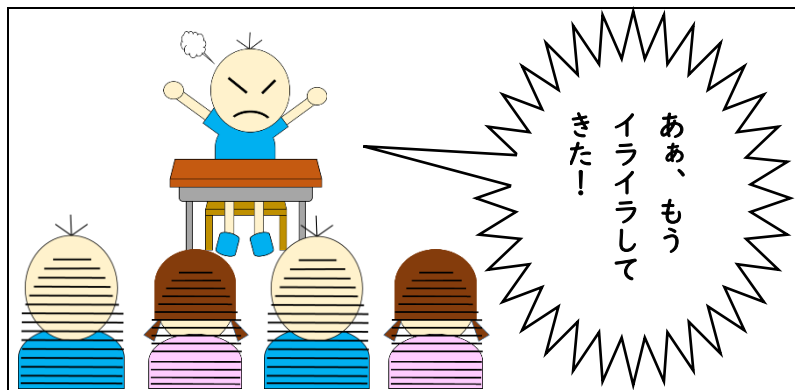


Q8. 交流学級の子供に本人の障害等を理解してもらうためには、何をしたらよいのでしょうか？



「〇〇障害のある□□さん」を理解してもらおう

- 特別支援学級の子供と一緒に交流学級の子供とかかわり、本人の得意なことや頑張っていることについての情報発信をしてみましょう。

読者の皆様は、交流学級の子供に特別支援学級の子供のことを正しく理解してもらい、自然な雰囲気の中で交流してほしいと願っていることと思います。しかし、特別支援学級に在籍している子供が複数いるため、交流学級での学習活動に毎回付き添うことができず、「どんなふうに過ごしているのだろう？」と心配になることもあるのではないのでしょうか。付き添えるときは、特別支援学級の子供と一緒に交流学級の子供とかかわりながら、本人の「苦手なこと」だけでなく、「得意なこと」や「今、頑張っていること」も伝え、子供同士のかかわりを深めるきっかけづくりに努めましょう。

また、交流学級の担任等にもこのような「子供の強み」や「その子らしさ」を伝えていき、障害特性や苦手なことに偏重した理解にならないよう留意する必要があります。それが、間接的に交流学級の子供の適切な障害理解につながります。



具体的なかかわり方を伝える

- 障害のある子供への適切な支援や協力の仕方について、具体的にどうすればよいかを伝えることで、子供同士の距離がグッと縮まります。

さらに子供同士の距離を縮めるために、お互いが具体的に「こんなときは、どうすればいいのか」を理解する必要があります。交流学級の担任と連携して、その子が苦手さを補うために「どんなサポートが必要なのか」を日頃から交流学級の子供に伝えておきましょう。特別支援学級の担任が、かかわり方のモデルとなるよう、意識的に子供と接することが重要です。

また、特別支援学級の子供は、困ったときや手伝ってほしいときに、周りの友達や教師に的確に伝えられるよう、自立活動の時間における指導等において「伝え方」を身に付けておくことが重要です。

特別支援学級の子供に限らず、交流学級の子供にも「苦手さ」はありますので、自分の気持ちを先生に伝えられるような学級の雰囲気づくりを心掛けたいですね。



- 【文献】 下山直人 編著（2015）：インクルーシブ教育システムにおける特別支援学校の未来～子ども・保護者・地域～、全国心身障害児福祉財団。
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2014）：共に学び合うインクルーシブ教育システム構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例、ジアース教育新社。

よく一緒に読まれているQ

- Q6 「学級の子供が初めて交流学級で学習することになりました。どんなことに気を付ければよいのですか？」
Q7 「交流学級の担任とは、どのように情報共有や連携をしていけばよいのですか？」

[目次に戻る](#)